

東北地方太平洋沖地震被災地支援活動の記録

派遣職員 富口真臣

所属 市税課

<p>1 派遣期間</p> <p>平成23年 6月16日 ~ 平成23年 6月25日</p>
<p>2 派遣先及び主な活動場所</p> <p>岩手県大槌町</p>
<p>3 支援活動の内容及び活動の状況</p> <p>住民課にて窓口業務(住民票、印鑑証明、戸籍謄本交付)</p> <p>合同慰霊祭、お別れの会従事</p> <p>地域整備課にて仮設住宅入居準備</p>
<p>4 活動を通じて感じたこと</p> <p>業務においては、10日間の短い期間であったため補助的な業務ばかりとなってしまったのが、残念に思いました。大槌町の職員は、派遣された時点では土日もなく、ほとんど毎日残業をしていると伺いました。二ヶ月、三ヶ月位の期間で支援に行き、担当業務を受け持つようなことが出来れば、職員の方々の負担を減らすことが出来るのではないかと感じました。</p>
<p>5 支援活動から見た被災状況など</p> <p>大槌町内は山間部を除きほぼ壊滅していました。まだ瓦礫が残っていて手付かず状態のところも多くありました。鉄筋構造の住宅はいくつか残っているが居住できる状態ではなく、木造家屋が建っていたと思われるところは住宅基礎のコンクリート部分しか残っていませんでした。大槌町役場庁舎も壊滅しており、職員150名中、町長外約30名の職員が災害支援本部設置中に津波にさらわれ犠牲となったとのことです。</p> <p>4月下旬より大槌小学校隣のプレハブ仮庁舎にて役場業務再開されており、自衛隊、消防、警察も敷地内にありました。大槌小学校は火災にて半分ほど延焼していたが、1階、2階の被害のなかった一部を使用し、義援金窓口、議会事務局が入っていました。仮庁舎は冷房設備、扇風機がなかったため6月でも仕事中はかなり暑く感じました。</p> <p>漁港周辺は1、2mほどの地盤沈下がみられ、浸水しているところもありました。漁業用の冷凍庫や魚網が置いてある近辺は腐敗臭がすごくマスクがないと耐えられないほどで、中には気分が悪くなった人もいました。</p> <p>震災から三ヶ月たったの派遣でしたが、まだ仮設住宅が建築中であり避難所生活されている方も多く、すぐ隣の避難所に印刷機があった為何度かいきましたが、プライバシーがない状態であり、震災のショックと永い避難所生活に疲れ切った顔が印象的でした。</p> <p>周辺の山田町、釜石市、陸前高田市も見る機会がありましたが、どこも同じくらいの被害を受けており、震災前の生活状況に戻るには数十年かかるのではないかと感じます。現地の状況はかなり酷い状態でしたが、派遣され、現地を自分の目で見る事が出来て、よい経験</p>

になったと思います。今後、個人的な活動においても支援をしていきたいと思っています。

